

保健福祉学研究

MYカモクに追加

英文名 : Health and Welfare

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。

独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。

研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。

保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保健福祉学は、健康の探求とその維持・増進を目的とする諸科学を統合した総合科学である。そこに福祉の視点を加味し、保健医療と福祉・教育・心理・社会経済などの学際融合を目指している。ライフサイクルにおける身体精神社会的な健康増進、家族関係、社会関係を人間発達学的視点に基づき支援するための保健福祉システム、それを支えるマンパワーの確立などがテーマになる。学生が、保健や福祉とは何かを深く考え、地域での実践や各種支援の実情、問題点などについて、十分に論じることができることを目標にする。

②履修者の進捗状況に合わせて、個別指導に近い形態で、ディスカッションや相互討論も含めながら講義を行う。パワーポイントのスライドやPDF資料などの教材は随時配布する。

到達目標

1. 研究方法やデザインについて説明できる
2. 幅広い保健福祉領域の中で自ら研究課題を探せる
3. 研究計画を実際にたて、分析し、考察できる
4. 研究方法論について学部生や修士学生に指導できる
5. 研究者としての基本的な倫理を有し、要綱を解説できる

使用教材

上原の研究論文を題材にディスカッションし、適宜資料などを配布する。

参考文献

心理学研究の方法と問題（原岡一馬著）ナカニシヤ出版、よりよい社会調査をめざして（井上文夫他著）創元社、質問紙調

評価方法 ^

講義に関する予習・復習の有無ならびに理解度70%、プレゼンテーションやディスカッションの内容20%、授業態度10%を総合して判断。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。

オフィスアワー ^

前後期ともに、月曜4限、金曜4限とする。

メールアドレス（#→@） ^

連絡先については授業で提示する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	何のために研究を行うのか	1	全体の概要を理解しておくこと	1h	ノートを読むこと。	1h
2	研究の種類や社会調査	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
3	研究のデザインとバイアス	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
4	データ解析の基本と標本調査	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
5	変数の種類と標準化	1,2,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
6	統計解析について	1,2,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
7	保健学と福祉学の共通理論と統合	1,2,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
8	保健福祉学の学問的位置づけ	1,2,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
9	保健及び社会福祉の実践に基づく理論展開	1,3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
10	保健福祉学のシステム化と連携	1,3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
11	単変量解析	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
12	多変量解析	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
13	分散分析とロジスティック分析	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
14	共分散構造分析	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	1h
15	前期の到達度確認	5	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
16	質問紙法とインタビュー	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
17	データ抽出法	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
18	データ分類	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
19	回帰と予測	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
20	ノンパラメトリック	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
21	因子分析	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
22	GTA	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
23	記述的帰納法	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
24	テキスト内容分析	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
25	質的統合法	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
26	保健福祉学の社会的意義	1,3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
27	研究倫理と実践	1,3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
28	課題発表	1,3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
29	総合討論	1,5	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
30	まとめと到達度確認	5	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。自ら、疑問や課題となるテーマを毎回持参すること。研究遂行において、学んだことを実践し、それを振り返り、フィードバックすること。

印刷 

高齢社会学研究

MYカモクに追加

英文名 : Research of Aged Society

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。
保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代社会の高齢者問題の多様な側面に対して、高齢（老年）社会学の視点と方法論を適用できるようになることが目標である。

②講義全体を通じての進め方としては、受講生が自らの研究テーマや問題関心に応じた学術図書各章（担当者の指定する教科書の場合もある）・学術論文を解題し意見を述べ、担当者ならびに他の受講生と質疑応答・議論をする。

到達目標

1. 高齢社会学研究の基本事項を説明できる
2. 高齢社会学研究デザインの重要性を認識できる
3. 高齢社会学研究の手法の種類と解析方法を解説できる
4. 自身の研究方法に対して、高齢社会学研究の知識や手法の適用を検討できる
5. 高齢社会の諸問題に対して、実現可能な研究方法を一人で計画できる

使用教材

第1回の時に学生と相談の上、各自の研究テーマなども考慮しながら使用教材を決める。

評価方法

講義に関する予習・復習の有無ならびに理解度50%、授業への参加態度20%、プレゼンテーションやディスカッションの内容30%を総合して判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。

オフィスアワー

前後期共に、火曜日5限・6限である。

メールアドレス（#→@）

教員への連絡方法は、初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（内容説明、使用教材の検討、報告順など）	1,2,3,4,5	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
2	老化の社会的側面	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
3	高齢者観の社会的・歴史的変遷	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
4	老年下位文化とメディア	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
5	超高齢社会の到来・人口高齢化の背景	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
6	高齢者扶養規範の変化	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
7	人口高齢化と社会保障制度・労働力人口の変化	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
8	老化と健康・疾病	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
9	高齢期の生活機能と健康づくり	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
10	老化学説と老化基準	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	高齢者医療	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
12	介護保険と介護度認定	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
13	平均寿命・平均余命・健康寿命	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
14	高齢（老年）社会学の研究動向	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
15	前期のまとめ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
16	定年退職と社会的引退	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
17	高齢期の経済生活	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
18	プロダクティブ・エイジング	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
19	年金制度	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
20	高齢期のネットワーク	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
21	高齢期の家族・親族関係	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
22	高齢期の地域関係	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
23	高齢期の友人関係	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
24	ひとり暮らし高齢者の急増	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
25	家族介護と施設介護	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
26	サクセスフル・エイジング	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
27	主観的幸福感	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
28	多様化するライフスタイル	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
29	活動理論・離脱理論・継続性理論	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
30	前後期のまとめ	1,2,3,4,5	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	3h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	3h

合計時間（予習・復習）

64h

備考

最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

印刷 

発達障害研究

MYカモクに追加

英文名 : Developmental Disorders

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。

独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。

研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。

保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹

科目に関連した実務経験

上原は精神科医として35年以上の臨床経験と、児童青年精神医学者として「こどものこころ専門医」と学会認定医を有する。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①発達障害者支援法が平成17年に施行され、自閉症をはじめとする広汎性発達障害、学習障害、注意欠如・多動性障害などの神経発達障害を持つ人々に対する援助等について定められた。ここでは、「発達障害者の心理機能の適正な発達及び円滑な社会生活の促進のために発達障害の症状の発現後できるだけ早期に発達支援を行うことが特に重要であることにかんがみ、発達障害を早期に発見し、発達支援を行うことに関する国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、学校教育における発達障害者への支援、発達障害者の就労の支援、発達障害者支援センターの指定等について定めることにより、発達障害者の自立及び社会参加に資するようその生活全般にわたる支援を図り、もってその福祉の増進に寄与することを目的とする」と記されている。学生が、神経発達障害をめぐる社会福祉の現状や今後の展望を俯瞰するとともに、医療・教育・司法の現場での実態や課題を調査研究し、神経発達障害の支援について考察できるようになる。

②履修者の進捗状況に合わせて、個別指導に近い形態で、ディスカッションや相互討論も含めながら講義を行う。パワーポイントのスライドやPDF資料などの教材は随時配布する。

到達目標

神経発達障害の成因、診断、経過を説明できる

代表的な自閉スペクトラムとADHDについて解説できる

発達障害をめぐる社会福祉の現状や今後の展望を考察できる

医療・教育・司法など現場での実態や課題を考察できる

発達障害の支援について考察できる

使用教材

適宜参考書を推薦する

評価方法

講義への出席3分の2以上、講義に関する予習・復習の有無ならびに理解度70%、プレゼンテーションやディスカッションの内容20%、授業態度10%を総合して判断。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。

オフィスアワー

前後期ともに月曜5限、金曜5限とする。

研究室：1号館5階512研究室

メールアドレス（#→@）

連絡先については授業で提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	発達総論① 知覚、思考、情動	1	全体の概要を理解しておくこと	1h	資料や参考書で確認すること	1h
2	発達総論② 学習、記憶、運動	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
3	発達総論③ こころの理論	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
4	脳科学総論① 解剖と生理機能と局在	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
5	脳科学総論② 高次脳機能、社会脳	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
6	自閉スペクトラム① 疫学、診断、行動特性	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
7	自閉スペクトラム② 社会での実態、2次障害	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
8	自閉スペクトラム③ 支援と治療、最新の脳科学	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
9	ADHD① 疫学、診断、行動特性	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
10	ADHD② 社会での実態、2次障害	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
11	ADHD③ 支援と治療、最新の脳科学	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
12	特異的学習障害など	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
13	社会的な動向や課題	1,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
14	新しい診断や評価	1,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	前期のまとめ	1,2,3,4,5	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
16	発達障害の歴史	1,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
17	社会福祉施策やシステム	3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
18	教育現場の実情	3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
19	矯正司法領域	3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
20	産業や就業との関係	3,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
21	二次障害について	1,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
22	心理アセスメント	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
23	家族への支援	4,5	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
24	生物学的知見	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
25	生物的治療の研究	5	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
26	疫学的研究	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
27	心理療育支援の様々	4,5	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
28	ライフサイクルとの関係	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	討論の準備をすること	1h
29	総合討論①	1,2,3,4,5	討論に関係する資料や論文を読むこと。	1h	プレゼンテーションの準備	1h
30	総合討論②	1,2,3,4,5	討論に関係する資料や論文を読むこと。	1h	講義での学習を総括	1h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。自ら、疑問や課題となるテーマを毎回持参すること。研究遂行において、学んだことを実践し、それを振り返り、フィードバックすること。

印刷 

保健福祉調査研究

MYカモクに追加

英文名 : Research of Health and Welfare Sciences

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。
保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保健福祉に関する調査研究の知識と方法論を学び、保健福祉分野における調査研究を理解することによって、それを応用できる能力を身につけることが目標である。

②講義全体を通じての進め方としては、受講生が自らの研究テーマや問題関心に応じた学術図書各章（担当者の指定する教科書の場合もある）・学術論文を解題し意見を述べ、担当者ならびに他の受講生と質疑応答・議論をする。

到達目標

- 1.保健福祉に関する調査研究の基本事項を説明できる。
- 2.保健福祉に関する調査研究の研究デザイン的重要性を認識できる。
- 3.保健福祉に関する調査研究の手法の種類と解析方法を解説できる。
- 4.自身の研究方法に対して、保健福祉に関する調査研究の知識や手法の適用を検討できる。
- 5.保健福祉に関する諸問題に対して、実現可能な調査研究方法を一人で計画できる。

使用教材

第1回の時に学生と相談の上、各自の研究テーマなども考慮しながら使用教材を決める。

評価方法

講義に関する予習・復習の有無ならびに理解度50%、授業への参加態度20%、プレゼンテーションやディスカッションの内容30%等を総合して判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。

オフィスアワー

前後期共に、火曜日5限・6限である。

メールアドレス（#→@）

教員への連絡方法は、初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（内容説明、使用教材の検討、報告順など）	1,2,3,4,5	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
2	社会調査の論理	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
3	情報資源の発掘調査	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
4	社会調査の基本ルール	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
5	概念と変数	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
6	仮説の設定	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
7	調査票調査の方法	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
8	調査の企画・設計	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
9	調査票作成のプロセス	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
10	質問文の作成法	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	選択肢の選定と調査票デザイン	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
12	サンプリングという発想	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
13	サンプリングの原理	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
14	サンプリングの実際	1,2,3,4	全ての講義内サンプリングの実際	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
15	前期のまとめ	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
16	調査票調査のプロセス	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
17	データ化作業	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
18	データ分析の基本	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
19	統計的検定	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
20	回帰分析	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
21	報告書の作成	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
22	質的調査の方法	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
23	面接調査法	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
24	参与観察法	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
25	ドキュメント分析法	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
26	写真観察法	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
27	非参与観察	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
28	アクションリサーチ	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
29	質的調査法による研究のまとめ方	1,2,3,4	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	1h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	1h
30	前後期のまとめ	1,2,3,4,5	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	3h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	3h

合計時間（予習・復習）



64h

備考



最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

印刷

家族社会学研究

MYカモクに追加

英文名 : Research of Family Sociology

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。
保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代社会の家族問題の多様な側面に対して、家族社会学のアプローチと方法論を適用できるようになることが目標である。

②講義全体を通じての進め方としては、受講生が自らの研究テーマや問題関心に応じた学術図書各章（担当者の指定する教科書の場合もある）・学術論文を解題し意見を述べ、担当者ならびに他の受講生と質疑応答・議論をする。

到達目標

1. 家族社会学研究の基本事項を説明できる。
2. 家族社会学研究デザインの重要性を認識できる。
3. 家族社会学研究の手法の種類と解析方法を解説できる。
4. 自身の研究方法に対して、家族社会学研究の知識や手法の適用を検討できる。
5. 現代社会の家族の諸問題に対して、実現可能な研究方法を一人で計画できる。

使用教材

第1回の時に学生と相談の上、各自の研究テーマなども考慮しながら使用教材を決める。

評価方法

講義に関する予習・復習の有無ならびに理解度50%、授業への参加態度20%、プレゼンテーションやディスカッションの内容30%を総合して判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。

オフィスアワー

前後期共に、火曜日5限・6限である。

メールアドレス（#→@）

教員への連絡方法は、初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（内容説明、使用教材の検討、報告順など）	1,2,3,4,5	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
2	家族社会学の視点と方法論について（日本家族社会学会の概要説明を含む）	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
3	比較制度論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
4	形態的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
5	歴史社会的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
6	人口学的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
7	ジェンダー論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
8	エスノメソロジー的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
9	構造機能論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
10	システム論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	家族周期論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
12	家族病理学的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
13	家族ストレス論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
14	相互作用論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
15	前期のまとめ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
16	交換論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
17	ネットワーク論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
18	家族ライフスタイル論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
19	ライフコース論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
20	構築論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
21	計量論的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
22	事例研究的アプローチ	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
23	受講生が選択したアプローチの論文解題①	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
24	受講生が選択したアプローチの論文解題②	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
25	受講生が選択したアプローチの論文解題③	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
26	受講生が選択したアプローチの論文解題④	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
27	受講生が選択したアプローチの論文解題⑤	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
28	受講生が選択したアプローチの論文解題⑥	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
29	受講生が選択したアプローチの論文解題⑦	1,2,3,4	あらかじめ指定した参考書や論文・資料を読む。	1h	講義内容に関連する情報や知識を自主的に調べる。	1h
30	前後期のまとめ	1,2,3,4,5	全ての講義内容を概観し、各自の研究テーマに引きつけてレポートをまとめる。	3h	講義内容についてまとめ、各自の研究にかかわる課題を考察する。	3h

合計時間（予習・復習）



64h

備考



最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

印刷

児童青年心理研究

MYカモクに追加

英文名 : Child and Adolescent Psychology

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。

独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。

研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。

保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹

科目に関連した実務経験

上原は精神科医として35年以上の臨床経験と、児童青年精神医学者として「こどものこころ専門医」と学会認定医を有する。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人は誕生してから、さまざまな過程を経て、大人になり、そして老いていく。人類の歴史も、個人の歴史も、極めて相似している。人類はまだ、幼児期にあるという識者の意見がある。未熟な段階にある我々が、人類として成熟していくためにも、個体の発達について学ぶことには大きな意味がある。学生が、これまで培われた発達心理学の知見を学び、極めてダイナミックな時期である「児童青年期」の心理について考察できる。

②履修者の進捗状況に合わせて、個別指導に近い形態で、ディスカッションや相互討論も含めながら講義を行う。パワーポイントのスライドやPDF資料などの教材は随時配布する。

到達目標

- 1.乳幼児期から児童青年期に至る、心理発達の基本を説明できる
- 2.心理発達特有の代表的理論と、その応用事項を解説できる
- 3.心理発達に関連する心理社会問題について、考察できる
- 4.小児思春期の心理発達をめぐる疾病概念を説明できる
- 5.発達心理学的視点を研究に応用できる

使用教材

スライドをもとに展開

参考文献

適宜参考書を推薦。（児童と青年の発達心理学、橘川、随想社；子どもの認知発達、ゴスワミ、新曜社など）

評価方法

講義への出席3分の2以上、講義に関する予習・復習の有無ならびに理解度70%、プレゼンテーションやディスカッションの内容20%、授業態度10%を総合して判断。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。

オフィスアワー

前後期ともに月曜5限、金曜5限とする。

研究室：1号館5階512研究室

メールアドレス（#→@）

連絡先については授業で提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	発達心理学総論① 運動や知覚	1,2	全体の概要を理解しておくこと	0.5h	資料や参考書で確認すること	1h
2	発達心理学総論② 記憶や社会性	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
3	発達の理論① エリクソンとピアジェ	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
4	発達の理論② バンチュエラとフロイト	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
5	胎児期から新生児期	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
6	乳児期から幼児期	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
7	学童期	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
8	青年期からヤングアダルトへ	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
9	思春期の特徴	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
10	社会とのかかわりや課題	1,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
11	発達問題と心理療法	1,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
12	児童青年精神医学	1,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
13	虐待や社会的養護	1,4	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
14	母子関係や家族力動	1,3	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	前期のまとめ	1,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
16	乳幼児の認知発達	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
17	概念や因果推論の発達	1,2	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
18	メタ記憶	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
19	子どもの論理的推論	1,2	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
20	こころの理論	1,2	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
21	メンタライジング	1,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
22	マインドフルネス	1,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
23	最近の脳神経科学の知見	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
24	アセスメント論①	1,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
25	アセスメント論②	1,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
26	心理的アプローチ	1,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
27	スピリチュアルな視点	1,5	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
28	ライフサイクル論	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	討論の準備をすること	1h
29	総合討論①	1,4,5	討論に関する資料や論文を読むこと。	1h	プレゼンテーションの準備	1h
30	総合討論②	1,4,5	討論に関する資料や論文を読むこと。	1h	講義での学習を総括	1h

合計時間（予習・復習）

59.5h

備考

自ら、疑問や課題となるテーマを毎回持参すること。研究遂行において、学んだことを実践し、それを振り返り、フィードバックすること。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

印刷 

脳科学研究

MYカモクに追加

英文名 : Brain Science Research

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。

保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小澤 滯司

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①脳の機能と病態の研究では、分子→細胞（ニューロン）→神経回路→脳全体の統合的機能・行動という階層性に基づくアプローチが必要である。本科目では、脳の機能とその破綻としての精神・神経疾患の病態を現代の神経科学が上記のアプローチによりどこまで明らかにしつつあるのかを理解することを目標とする。

②各授業の終了時に、次回の講義内容に関連する重要事項を提示し、必要に応じて資料提供、および事前に読むべき論文を指示する。また、講義内容に関連する事項をテーマとして、学んだことを整理するとともに、最新の知見を調べて口頭で発表する機会を設ける。

到達目標

- 1.脳の機能を、分子→細胞（ニューロン）→神経回路→脳全体の統合的機能・行動というマイクロからマクロにわたる階層性に基づき理解する。
- 2.脳の正常機能の破綻としての精神・神経疾患の病態を現代の神経科学がどこまで明らかにしつつあるのかを理解する。
- 3.先端的研究の核心にアプローチし、学習の成果を適切に取りまとめて発表する能力をもつ。

使用教材

テキスト：神経科学 ―脳の探求― Bear MF et al. (加藤宏司他訳) 西村書店 2007

評価方法

講義10-28回目のいずれかの講義内容に関連する事項をテーマとして、最新の知見を調査して口頭発表を行うことを課する。その発表の質を評価して合否を決定する。

課題・評価に対するフィードバック方法

調査課題の発表を講評するとともに、そのレベルを採点する。

オフィスアワー

水曜日の3時限と4時限
研究室：1号館6階606

メールアドレス (#→@)

sozawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	神経科学の基礎 (1) 脳のマクロ解剖学	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	神経系のマクロの構造を理解する。	1.5 h
2	神経科学の基礎 (2) 神経系の細胞構築	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	神経系の細胞構築、特にニューロンとグリアの特性を理解する。	1.5 h
3	神経科学の基礎 (3) 神経細胞の興奮性、イオンチャンネル	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	イオンチャンネルに関する知識に基づき、活動電位の発生機序を理解する。	1.5 h
4	神経科学の基礎 (4) シナプス伝達	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	シナプス伝達機序を理解する。	1.5 h
5	神経伝達物質と受容体 (1) 興奮性アミノ酸	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	興奮性シナプス伝達を担う伝達物質とそれらの受容体について理解する。	1.5 h
6	神経伝達物質と受容体 (2) GABAとグリシン	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	抑制性シナプス伝達を担う伝達物質とそれらの受容体について理解する。	1.5 h
7	神経伝達物質と受容体 (3) アセチルコリン	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	アセチルコリンとその受容体の役割について理解する。	1.5 h
8	神経伝達物質と受容体 (4) ドーパミン、ノルアドレナリン、セロトニン	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	モノアミンとそれらの受容体の役割を理解する。	1.5 h
9	神経伝達物質と受容体 (5) 神経ペプチド、プリン体 (ATP、アデノシン)	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	神経ペプチド、プリン体とそれらの受容体の役割を理解する。	1.5 h
10	感覚系 (1) 化学感覚	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	嗅覚、味覚の神経メカニズムを理解する。	1.5 h
11	感覚系 (2) 視覚、聴覚、平衡感覚	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	視覚、聴覚、平衡感覚の神経メカニズムを理解する。	1.5 h
12	感覚系 (3) 体性感覚、特に痛覚	1,2,3	テキストの関連部位を精読する。	2h	体性感覚、特に痛覚の神経メカニズムを理解	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					する。	
1 3	感覚系（４）神経障害性疼痛	1,2, 3	配布した資料、および紹介する文献を精読する。	4h	神経障害性疼痛の発生メカニズム、治療法について理解する。	1.5 h
1 4	運動制御（１）脊髄による運動制御とその異常	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	運動制御における脊髄の役割とその障害による疾患を理解する。	1.5 h
1 5	運動制御（２）大脳による運動制御とその異常	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	運動制御における大脳皮質、大脳基底核の役割とそれらの障害による疾患を理解する。	1.5 h
1 6	運動制御（３）小脳による運動制御とその異常	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	運動制御における小脳の役割とその障害による疾患を理解する。	1.5 h
1 7	脳と行動の化学的制御	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	脳に作用する主な薬物とそれらのもたらす影響、作用メカニズムの概要を理解する。	1.5 h
1 8	情動（１）大脳辺縁系の概念	1,2	配布した資料、および紹介する文献を精読する。	2h	大脳辺縁系研究の歴史とその中で生まれた概念を理解する。	1.5 h
1 9	情動（２）扁桃体と関連神経回路	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	情動の体験と表出における扁桃体と関連神経回路の役割を理解する。	1.5 h
2 0	記憶（１）記憶と健忘症の種類	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	記憶と健忘症の種類を理解する。	1.5 h
2 1	記憶（２）側頭葉と陳述記憶	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	陳述記憶の形成における内側側頭葉と海馬の役割を理解する。	1.5 h
2 2	記憶（３）線条体と手続き記憶	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	手続き記憶形成における線条体の役割を理解する。	1.5 h
2 3	記憶（４）大脳皮質と作業記憶	1,2	配布した資料、および紹介する文献を精読する。	2h	作業記憶の概念とそれを担う脳部位の役割を理解する。	1.5 h
2 4	脳のリズムと睡眠	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	脳のもつ日内リズム、睡眠の脳内メカニズムを理解する。	1.5 h
2 5	言語（１）言語野	1	テキストの関連部位を精読する。	2h	言語野の機能別分類とそれらの局在を理解する。	1.5 h
2 6	言語（２）失語症のタイプと原因	1,2	テキストの関連部位を精読する。	2h	多様な失語症のタイプとそれらに対応する脳部位を理解する。	1.5 h
2 7	非侵襲的脳機能計測法	1	配布した資料、および紹介する文献を精読する。	2h	機能的磁気共鳴画像法（fMRI）の原理と応用範囲を理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
28	近赤外線スペクトロスコピー法による脳機能研究の紹介	1,2,3	配布した資料、および紹介する文献を精読する。	2h	近赤外線スペクトロスコピー法の原理と応用範囲を理解する。	1.5h
29	調査課題の発表と講評	1,2,3	今年度の調査・発表課題は、「神経障害性疼痛の発生メカニズムと治療」とするので、これについて学んだことを整理するとともに、最新の知見を調べて発表する。	10h	神経障害性疼痛に関する最新の知見を的確に説明できるようにする。	1h
30	まとめ、展望	1,2,3	使用したテキスト、これまでの配布プリントに目を通す。	1h	本講義で学んだこと、および今後学ぶべきことを整理する。	1h

合計時間（予習・復習）

111h

印刷 

医療福祉情報学研究

MYカモクに追加

英文名 : Advanced Healthcare Informatics

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。
保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

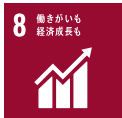
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松尾 仁司

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①少子高齢社会の先進国である我が国において、持続可能な社会保障制度の改革は喫緊の課題であり、医療福祉分野への情報技術の活用が期待されている。本研究では、医療福祉分野の各種データを対象として、行政や医療・福祉機関がサービスの質と効率を向上するための新しい医療福祉情報学を理解し、従来の課題を解決するための手法を修得する。

②本研究では、医療福祉分野の各種データの収集と分析、利活用の新たな概念に関して、調査分析と発表によるゼミ形式の双方向ディスカッションで講義を行う。

到達目標

- 1.医療福祉分野の各種データを統合したデータベースを活用する新しい概念を理解する。
- 2.診療実績やサービス供給体制の経時的多項目データを定量的に分析する手法を理解する。

使用教材

必要に応じて関連の資料を配布。

評価方法

レポート課題にて100%評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

ゼミ形式の双方向授業が主体のため、各回の課題に対するフィードバックは講義内で行われる。

オフィスアワー

メールアドレス (#→@)



教員への連絡方法は、初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療福祉情報学と研究の目的	1	シラバスに目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
2	超少子高齢社会の到来	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
3	社会保障システムの現状と課題	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
4	医療福祉情報の概念	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
5	医療福祉情報の安全管理	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
6	医療情報システム	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	指定した課題を実施する。	2h
7	福祉情報システム	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	指定した課題を実施する。	2h
8	保険制度の基礎	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
9	データベース技術	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
10	データ処理の概念	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
11	人工知能技術の基礎	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
12	自然言語処理の基礎	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	指定した課題を実施する。	2h
13	医療福祉情報データ処理演習 (I) -データ収集-	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
14	医療福祉情報データ処理演習 (II) -データクレンジング-	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
15	医療福祉情報データ処理演習 (III) -データクレンジング-	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
16	医療福祉情報データ処理演習 (IV) -データベース構築-	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
17	医療福祉情報データ処理演習 (V) -データベース構築-	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
18	医療福祉データ処理の課題	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
19	地理情報システムの基礎	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
20	人工知能の応用 (I) -学習-	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
21	人工知能の応用（Ⅱ）－分類－	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
22	人工知能の応用（Ⅲ）－認識	1,2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
23	医療福祉情報データ解析演習（Ⅰ）－学習－	2	指定した文献に目を通す。	1h	指定した課題を実施する。	2h
24	医療福祉情報データ解析演習（Ⅱ）－学習－	2	指定した文献に目を通す。	1h	指定した課題を実施する。	2h
25	医療福祉情報データ解析演習（Ⅲ）－分類－	2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
26	医療福祉情報データ解析演習（Ⅳ）－分類－	2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
27	医療福祉情報データ解析演習（Ⅳ）－評価－	2	指定した文献に目を通す。	1h	データ処理方法を修得する。	2h
28	ビジュアライゼーション（Ⅰ）	2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
29	ビジュアライゼーション（Ⅱ）	2	指定した文献に目を通す。	1h	講義内容の理解を深める。	2h
30	全体まとめ・レポート課題の提示	1,2	事前に提示したレポート課題を理解する。	1h	レポート課題への取り組みに着手。	2h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

予習・復習を通し、博士後期課程の研究遂行に活用できるように理解を深めること。

印刷 

保健福祉情報システム学研究

MYカモクに追加

英文名 : Information Systems Research for Health and Welfare

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。
保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

東福寺 幾夫

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現現代社会において、情報通信技術（ICT）を除外したら保健・医療・福祉は成立し得ない。保健・医療・福祉の運営、その改善にICTを適切に利用することは、必須要件であるが、法的基盤は整備されているとは言えない。

そこで本研究では、医療情報システムのシステム開発や導入を推進する行方立場から、医療のICT化と遠隔医療に的を絞り、政策動向、技術動向とそれに関わる課題、標準化の動向とそれに関わる課題を理解したうえで、「医療情報基本法」の試案を作成する。

到達目標

- 1.医療情報システムに関わる政策動向を把握できる。
- 2.医療情報システムの技術動向を把握し、理解できる。
- 3.医療情報システムの標準化動向を把握し、その現状と限界を理解できる。
- 4.医療情報システムの課題を克服し、発展のための要件を提案できる。

使用教材

必要な資料は適宜提供する。

評価方法

授業への参加態度50%、ディスカッションの内容50%、等を総合して判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。

オフィスアワー

月曜日の4時限と水曜日3時限

メールアドレス (#→@)

tofukuji #takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction、本研究の進め方①	1,2,3,4	シラバスを読み、本研究の成果目標を理解する	1h	配布された資料を読み込む	1h
2	日本の医療の歴史と成果①	1,2,3,4	マクロ統計データを収集し検討する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
3	日本の医療の現状と課題	1	医療に関する統計データから、日本の医療の課題を読み解く	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
4	日本の医療ICTの発展経過①	1	指定された資料を読む	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
5	日本の医療ICTの発展経過②	1	指定された資料を読む	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
6	電子カルテの普及の経緯と現状	1	電子カルテ普及に関する統計情報を収集する	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
7	討議 日本の医療ICTの現状、成果、評価	1	日本の医療ICTにこれまでの検討をまとめる	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
8	討議 日本の医療ICTの現状、成果、評価	1	日本の医療ICTにこれまでの検討をまとめる	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
9	海外諸国との比較（マクロな統計情報）の分析①	1	海外諸国のマクロな医療統計データを収集する	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
10	海外諸国との比較（マクロな統計情報）の分析②	1	海外諸国のマクロな医療統計データを収集する	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
11	遠隔医療に関わる政策動向	1	遠隔医療に関わる法的制約をどのように排除してきたか資料を収集する	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
12	DtoD遠隔医療① Telepathology、Teleradiology	1	これまでの検討内容をまとめ、整理する	1h	討論内容を整理する	1h
13	DtoD遠隔医療② 臨床医を支える遠隔医療	2	Telepathology, Teleradiology以外のDtoDに関わる資料を収集する	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
14	DtoD遠隔診療③ DtoD遠隔医療の動向	2	DtoD遠隔医療に関わる実施資料を収集する	1h	討論内容を振り返り、整理する	1h
15	DtoP遠隔診療① オンライン診療・遠隔診療に関わる法規制	2	遠隔診療に関連する政策資料を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
16	DtoP遠隔診療② 在宅医療への適用	2	在宅医療に関わる医療制度に関する資料を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
17	DtoP遠隔診療③ 在宅医療に関わる諸問題	2	遠隔医療の標準化やガイドライン情報を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
18	DtoP遠隔診療④ 在宅医療と多職種連携	3	多職種連携に関する資料を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
19	遠隔医療の発展形としての治療アプリ (SaMD)	3	SaMDに関わる情報を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
20	隔医療と情報セキュリティ① 個人情報保護	3	個人情報保護に関する資料を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
21	遠隔医療と情報セキュリティ② HPKI	3	HPKIに関わる情報を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
22	遠隔医療と情報セキュリティ③ マイナンバーカード	3	マイナンバーカードの医療応用に関わる資料を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
23	遠隔医療と保険診療	4	遠隔医療に関連する保険点数に関する資料を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
24	遠隔医療と標準化	4	医療ICT標準化に関わる情報を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
25	遠隔医療の負の側面	4	遠隔医療を悪用した事例に関する資料を収集する	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
26	国境を超える遠隔医療、医療データと国境	4	国境を越えた遠隔医療とデータの国際移動に関わる規制の資料を集める	1h	検討結果を振り返り、整理する	1h
27	医療情報基本法制度の検討①	7	医療におけるICT利用に関わる問題点を整理する	2h	検討結果を振り返り、整理する	2h
28	医療情報基本法制度の検討②	4	法案要件をリストアップする。	2h	検討結果を振り返り、整理する	2h
29	医療情報基本法制度の検討③	1,2,3,4	検討した法案要件をもとに、・条文の構成を検討する	2h	検討結果を振り返り、整理する	2h
30	医療情報基本法制度の検討④	1,2,3,4	法案の章・条文を具体化する	2h	検討結果を振り返り、整理する	2h

合計時間（予習・復習）

68h

備考

事前に配布する関連資料は必ず事前に熟読し、授業時の発表・討議に必要な準備作業を完了させておくこと。

印刷 

高齢者福祉研究

MYカモクに追加

英文名 : Social Welfare for the Elderly

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。
保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松沼 記代

科目に関連した実務経験

高齢者のデイサービスの生活相談員やグループホームの管理者として勤務（経験）

社会福祉士法人の理事長、本学学士課程非常勤講師勤務（現在）

2つの社会福祉法人の役員、群馬県介護審査会委員、玉村町介護運営委員会、群馬県介護研修センター講師（現在）

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

ディスカッション、プレゼンテーション

提出されたレポートにはコメントを入れて返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①我が国の高齢者福祉研究の現状と動向に関する見識を深め、今後のビジョンを検証する。海外の研究論文等を調べて、研究計画に関する課題や研究内容を明確にする。また、高齢者福祉現場の改善に活かす実践応用能力や、研究の手法を習得する。

②各回の授業では講師が用意した配布資料を使用して講義を進めるとともに、受講者が事前にまとめたレジメについて討論する機会を設ける。

到達目標

1. 我が国や海外の高齢者福祉研究の現状と動向に関する見識を深める。
2. 研究計画に関する課題や研究内容を明確にして、専門学会で発表する能力を習得する。
3. 高齢者福祉現場におけるケアや支援の質の改善に向けて、実践応用能力や研究の手法を習得する。

使用教材

適時印刷資料を配布し、参考資料を提示する。発表の際は個々で作成し印刷したレポートや添付資料を印刷して配布する。担当教員著書「施設内研修におけるエスノグラフィーの効果に関する研究」を配布する。

評価方法

レポート提出及び発表70%、授業の参加度30%

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートはコメントを付けて返却する。発表の際はその場でフィードバックする

オフィスアワー

授業の前後の時間帯とする。
質問や意見はメールからも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	導入、授業の進め方の説明	1,2	高齢者福祉に関する施策について調べる	2h	高齢者保健福祉に関する施策の問題点について考える。	1.5h
2	介護保険制度の現状と課題 施設サービス①	1,2	介護施設サービスの最新の情報を収集する。	2h	介護施設サービスの現状と問題点を考察する。	1.5h
3	介護保険制度の現状と課題 施設サービス②	1,2	介護施設サービスの最新の情報を収集する。	1.5h	介護施設サービスの現状と問題点を考察する。	1.5h
4	介護保険制度の現状と課題 居宅サービス①	1,2	居宅サービスの最新の情報を収集する。	1.5h	居宅サービスの現状と問題点を考察する。	1.5h
5	介護保険制度の現状と課題 居宅サービス②	1,2	居宅サービスの最新の情報を収集する。	1h	居宅サービスの現状と問題点を考察する。	1h
6	介護保険制度の現状と課題 ケアの質の評価	1,2	ケアの質の評価方法について調べる	2h	学修したケアの質の評価方法以外について調べる。	1h
7	海外のケアの質の評価方法	1,2	海外のケアの質の評価方法について調べる。	2h	その他の評価方法について調べる	1h
8	高齢者施設における人材育成の現状と課題 施設内研修プログラム	1,2	高齢者施設や事業所の人材育成に関する情報を収集する。	2h	高齢者施設や事業所の人材育成に関する現状と課題を整理し、考察する。	1h
9	高齢者施設における人材育成の現状と課題 施設風土	1,2	高齢者施設や事業所の施設風土に関する情報を収集する。	1.5h	高齢者施設や事業所の施設風土に関する現状と課題を整理し、考察する。	1h
10	高齢者施設における材育成の現状と課題 チームケア	1,2	高齢者施設や事業所におけるチームケアに関する情報を収集する	1.5h	高齢者施設や事業所におけるチームケアのあり方について考察する。	1h
11	高齢者施設における人材育成の現状と課題 定例研修 I ①	1,2	高齢者福祉施設や事業所の定例研修に関する情報を収集する。	2h	高齢者福祉施設や事業所の定例研修に関する現状と課題を整理し、考察する。	1h
12	高齢者施設における人材育成の現状と課題 定例研修 I ②	1,2	高齢者施設や事業所の定例研修のあり方について	1h	高齢者施設や事業所の定例研修の方法についてレポートにまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	高齢者施設における人材育成の現状と課題 OJT	1,2	高齢者施設や事業所のOJTに関する情報を収集する。	2h	高齢者施設や事業所のOJTの方法についてレポートにまとめる。	1h
14	高齢者施設における人材育成の現状と課題 スーパービジョン①	1,2	スーパービジョンの意味と方法について調べる。	2h	高齢者施設や事業所におけるスーパービジョンの現状と課題を整理する。	1.5h
15	高齢者施設における人材育成の現状と課題 スーパービジョン②	1,2	スーパービジョンに関する文献を調べる。	1.5h	海外のスーパービジョンに関する文献を調べ、我が国の課題を考察する。	1.5h
16	チームアプローチにおけるリーダー論①	1,2	高齢者福祉サービスにおけるリーダー論に関する文献を調べる。	1.5h	高齢者福祉サービスにおけるリーダーのあり方を考察する。	1.5h
17	チームアプローチにおけるリーダー論②	1,2	高齢者福祉サービスにおけるリーダーの現状と課題を調べる	2h	リーダー論についてレポートにまとめる。	1h
18	海外の高齢者施設における人材育成プログラムの現状と動向①	1,2	海外の高齢者施設における人材育成プログラムについて調べる。	1.5h	我が国に適用できる方法について考察する。	1.5h
19	海外の高齢者施設における人材育成プログラムの現状と動向②	1,2	海外の高齢者施設における人材育成プログラムについて調べる。	1.5h	我が国に適用できる方法について考察する。	1.5h
20	地域包括ケアの現状と課題 市町村の動向①	1,2	地域包括ケアにおける施策の最新の情報を収集する。	2h	地域包括ケアにおける施策の課題を整理し、考察する。	1h
21	地域包括ケアの現状と課題 市町村の動向②	2,3	自分の居住地の地域包括ケアの現状を調べる。	2h	自分の居住地の地域包括ケアの課題を考察する。	1.5h
22	地域包括ケアの現状と課題 総合事業①	1,2	総合事業に関する施策について調べる。	1.5h	総合事業の施策の課題を考察する。	1.5h
23	地域包括ケアの現状と課題 総合事業②	2,3	自分の居住地や関係する市町村の総合事業について調べる。	2h	自分の居住地や関係する市町村の総合事業の課題を考察する。	1h
24	地域包括ケアの現状と課題 他職種連携①	1,2	地域包括ケアの他職種連携のあり方について調べる。	2h	地域包括ケアの他職種連携の課題について考察する。	1h
25	地域包括ケアの現状と課題 他職種連携②	2,3	自分の居住地や関係する市町村の他職種連携について調べる。	1.5h	自分の居住地や関係する市町村の他職種連携の課題について考察する。	1.5h
26	海外の介護予防事業の現状と動向①	1,2,3	海外の介護予防事業について調べる。	2h	学修した内容を我が国に当てはめて考察する。	1h
27	海外の介護予防事業の現状と動向②	1,2,3	海外の介護予防事業について調べる。	1.5h	我が国の介護予防事業の課題を考察する。	1.5h
28	海外の認知症ケアの現状と動向①	1,2	海外の認知症ケアの動向を調べ、発表の準備をする。	2h	学修した内容を我が国に当てはめて考察する。	1.5h
29	海外の認知症ケアの現状と動向②	1,2,3	海外の認知症ケアの動向を調べ、発表の準備をする。	1.5h	学修した内容を我が国に当てはめて考察する。	1.5h
30	発表とまとめ	1,2	自分の研究に適用できるテーマを調べ、発表の準備	2h	発表した内容を考察し、修正する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			備をする。			

合計時間 (予習・復習)



91h

印刷 

子育て発達支援研究

MYカモクに追加

英文名 : Children Development Support Research

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。
保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

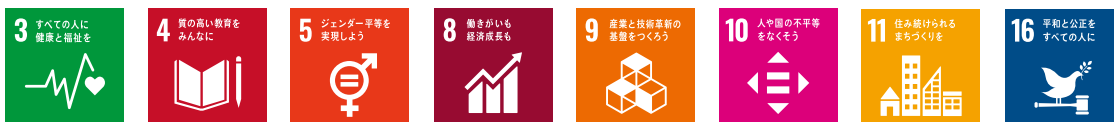
担当教員

千葉 千恵美

科目に関連した実務経験

公立保育所保育士勤務

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①複雑な家族関係から生じる家族問題や家族背景の問題を検討し、健全な親子関係に必要な愛着形成を調査し、健康、医療、福祉、教育等を視野から、子どもの発達と親支援の研究を行う。

親側の問題（障害等精神疾患等に罹患している親や外国籍の親、発達障害の子どもを持つ親）等、親が抱える課題や支援方法の研究を行う。子育て支援や保育・教育の内容である海外書籍、論文等を読み支援研究を行う。

②博士論文に必要な子育て支援の知識や技術の修得並びに研究方法を考える形式を取る。書籍や文献等を利用しデータの読み取りや収集に向けた研究方法も取り入れる。

到達目標

- 1.子育てに必要な支援について国内外の書籍、文献、論文を読み知識を得る事が出来る。
- 2.障害等精神疾患等の支援が必要事例を検討し、問題解決策を考案し支援が出来る。
- 3.愛着形成にむけた支援プログラムを考案し、困難事例の対応や介入方法を提示する事が出来る。
- 4.子どもの状況に向けて早期発見、介入に向けた予防策を多機関連携・協働で対応する事が出来る。

使用教材

- 1.千葉千恵美著「乳幼児保育と子育て支援」諷詠社 2023
- 2.インスー・キム・バーグ著「家族支援ハンドブック」金剛出版社 2010
- 3.スーザン・H・マクダニエル著「メディカルファミリーセラピー」金剛出版 2016

評価方法

中間レポート提出40%、最終レポート提出60%とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各授業終了後、授業内容についての質問を受けコメントを行う。中間レポート課題並びに最終レポート課題についてフィードバックをする。

オフィスアワー

火曜4・5限目

研究室：8号館4階

メールアドレス（#→@）

chiba#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	書籍1.p1-p23 書籍4. p1-p4を事前に読み講義内容にふれる	1.5h	講義資料を読み返し、子育て支援概要から得られた知識を理解し整理する	1.5h
2	子どもと家族に関する養育状況 —児童虐待についての検討—	1,2	書籍5.p29-p35 事前に配布した海外論文に目を通しておく	1.5h	児童虐待に関する支援方法等海外の対応を含め得られた知識を整理する	1.5h
3	特別な支援が必要な親への事例対応 —アルコール依存症・薬物依存の対応—	1,2	書籍5.p276-p280を事前に読み、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	アルコール依存や薬物依存の親や家族のに向けた支援方法等知識を整理する	1.5h
4	精神疾患が疑われる親や家族の対応 —事例への介入とその支援について—	1,2,4	書籍3.p185-p203を事前に読み、講義内容を把握する	1.5h	親の精神疾患と児童虐待のメカニズムについて理解し、介入方法を整理する	1.5h
5	親子に向けた面接方法の理解と実践 —調査方法と分析—	1,2,3,4	書籍2.p41-62を読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	親子に向けた関わりや支援方法等理論的背景による支援と分析の理解をする	1.5h
6	子育て支援の理論と展開 —歴史や背景や状況について—	1,2,3,4	書籍2.p163-188を読み、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	書籍を読み返し、様々な子育て支援の概要や背景を理解し問題整理をする	1.5h
7	子育て支援の理解と課題 —愛着形成や愛着関係のメカニズムについて—	1,3	書籍2.p229-p241を事前に読み、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	書籍や講義ノートを読み返し、愛着形成に必要な関わりを理解し整理する	1.5h
8	子育て支援の対応で出てくる問題と解決策	1,2,3,4	書籍2.p152-p162を読み、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	書籍や講義ノートを読み返し、子育て支援の問題と解決策への理解し整理する	1.5h
9	親子関係の構築 —妊娠期から乳幼児期に必要な支援—	1,2,3,4	書籍5.p318-319を事前に読み、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	妊娠期から出産後の親子形成に向けた関わりについて支援を理解し整理する	1.5h
10	他機関連携と協働の必要性 —母子包括支援センター等他機関の協力について—	1,2,3,4	書籍5.pp202p206を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	関連機関の役割及び連携・協働による介入と解決策について理解し整理する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	ハイリスクを予防する子育て支援について 一様々な事例検討を通して一	1,2,3,4	書籍5.p256-p264を事前に読み、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	ハイリスクの事例及び親子関係への支援を理解し整理する	1.5h
12	ハイリスクのある特定妊婦の事例への理解と支援	1,2,3,4	書籍5.pp242-p246 p280-287を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	特定妊婦の配慮と児童虐待防止に向けた対応の理解を整理する	1.5h
13	再生家族に向けた支援方法 一里親支援やステップファミリーへの対応一	1,2,3,4	書籍5.p241 p215-p254を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	新たな家族再生に向けた支援について親子の関わりを理解し整理する	1.5h
14	医療・保育・教育現場に求められるこれからの子育て支援	1,2,3,4	書籍5.p202-p206を事前に読み、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	医療や保育・教育機関と家庭で求められる連携・協働について理解し整理する	1.5h
15	親子関係から生じる児童虐待に向けた予防策	1,2,3,4	書籍5.p29-p39 を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	親子関係から見える児童虐待予防に向けた解決策を理解し整理する	1.5h
16	要保護児童と親の養育態度や養育状況との関連性	1,2,3,4	書籍5.p108p123 p124-p132を事前に読み、予備知識を入れる	1.5h	要保護児童と親の養育状況と問題の関連性を理解し解決策を整理する	1.5h
17	障害傾向のある子どもの医療診断と援助方針について	2,3,4	書籍3.p239-p244を事前に読み、予備知識を入れる	1.5h	医療機関と親支援の必要性について理解し整理する	1.5h
18	母子分離の不安と愛着障害について	2,3,4	書籍5.p157-p169 p170-p182を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	母子分離に関する理解と愛着障害のメカニズムについて理解し整理する	1.5h
19	国及び自治体に関する法的対応とその支援	1,4	事前に配布した資料を基に、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	国や自治体の対応と児童虐待に向けた取り組みの理解と整理をする	1.5h
20	地域支援に向けた取り組み 一子育て支援センターの実際一	1,4	書籍4.p70-p82を事前に読み、予備知識を入れる	1.5h	地域子育て支援の現状と課題を理解し介入方法を理解し整理する	1.5h
21	子どもへの安全確認に向けた対応と調査分析	1,4	書籍5.p290-p293 書籍4.p106-p114を事前に読み、予備知識を入れる	1.5h	子どもの安全確認確保等把握できない事例検討の調査を理解し整理する	1.5h
22	児童虐待死亡事故事例についての検討	1,2,3,4	配布した資料や5.p317p320を読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	児童虐待死亡事例を調査、分析した内容の理解し整理をする	1.5h
23	発達障害と子育て支援	1,4	書籍1p38-p47 書籍4.p10-p24を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	発達障害を持つ子どもの育児不安について理解し、親支援の方法を整理する	1.5h
24	被虐待児童への子育て支援	1,3,4	書籍1.p2-p23 書籍4p25-p32を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	愛着障害の養育課題と子育て支援の理解について整理をする	1.5h
25	国際結婚の子育て支援方法 一外国籍の親を持つ子どもとその親一	1,3,4	書籍4.p32-p52を事前に読み、講義ない湯の予備知識を入れる	1.5h	外国籍の親支援と子どもへの対応について理解し整理する	1.5h
26	双児、多生児低体重児等の出産に伴う特別な支援が必要な子育て支援について	1,2,3,4	書籍1.p48-p60 書籍5.319-p329を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	双児、多生児等に伴う子育て支援お必要性を理解し整理する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
27	0.1.2歳である乳幼児期における子育て支援の必要性	1,2,3,4	書籍1.p48-p60を事前に読み、講義内容について予備知識を入れる	1.5h	0.1.2歳児の育つ環境と関わりに向けた子育て支援を理解し整理する	1.5h
28	問題の早期発見と早期介入について	1,2,3,4	書籍1.p36-p37 p61-p68を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	親子の関係に気づき早期の発見と介入の必要性を理解し整理する	1.5h
29	家族関係や夫婦の関係 原家族の関わりと現状の課題	1,2,3,4	書籍2.p247-p259 書籍3.p3-p25を事前に読み、講義内容の予備知識を入れる	1.5h	家族の形成や原家族の影響について理解し整理する	1.5h
30	まとめ 子育て発達支援の必要性	1,2,3,4	今までの書籍また講義ノートを総合的に振り返る	1.5h	子育て発達研究である講義内容を振り返り、研究調査を深める	1.5h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

Key Word：子育て支援、親支援、発達、ハイリスクのある家庭への対応、児童虐待防止
 オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。

印刷 

福祉人材育成研究

MYカモクに追加

英文名 : Human Resource Development for a Person Engaged in Social Welfare Service

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。

独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。

研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。

保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

永田 理香

科目に関連した実務経験

群馬県社会福祉協議会福祉マンパワーセンター人材課での研修担当者

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

【講義の目標】

現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本講義では、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について、教育学的視点を取り入れながら学んでいく。

【講義の実施方法】

- ・ 事前配布された参考文献・資料を読み理解を深める
- ・ テーマに基づきディスカッションし考察を深める
- ・ 福祉職場の視点から課題を整理する

到達目標

1. 人材育成の基礎的知識について解説することができる。
2. 人材育成に関する理論について解説することができる。
3. 職場レベルにおける人材育成の現状と課題について説明することができる。

4.都道府県レベルの人材育成の現状と課題について説明することができる。

5.教育学的視点から人材育成の方法について説明することができる。

使用教材

講義に使用する資料は適宜配布する。また、参考資料、文献等は、講義内容に基づき提示する。

評価方法

ディスカッションを中心とした授業展開とするため、授業における発言内容（50%）、最終講義における研究成果の発表内容（50%）により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートについては、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー

火曜日3時限、水曜日2時限

研究室：1号館3階309

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは授業時にアナウンスする。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション—人材育成とは—	1	人材育成の定義について調べる。	1h	人材育成における組織と個人の関わりについて理解を深める。	1h
2	人材育成の歴史	1	人材育成の歴史の流れについて調べる。	1h	人材育成の歴史と社会的背景の関係性について理解を深める。	1h
3	人材育成とキャリア開発	1	キャリア開発の方法について調べる。	1h	人材育成とキャリア開発の関係性について理解を深める。	1h
4	福祉人材育成に関する政策的変遷	1	最近の福祉人材育成に関する政策を調べる。	1h	福祉人材育成における政策の課題について理解を深める。	1h
5	人材育成に関する理論(1)学習理論	2	学習理論の基礎的内容について調べる。	1h	人材育成と学習理論との関わりについて理解を深める。	1h
6	人材育成に関する理論(2)動機付け理論	2	動機付け理論の基礎的内容について調べる。	1h	人材育成と動機付け理論との関わりについて理解を深める。	1h
7	人材育成に関する理論(3)学習環境のデザイン	2	学習環境デザインに関する基礎的内容を調べる。	1h	人材育成と学習デザインの関わりについて理解を深める。	1h
8	人材育成に関する理論(4)カリキュラムデザイン	2	カリキュラムデザインの基礎的内容について調べる。	1h	カリキュラムデザインと人材育成との関わりについて理解を深める。	1h
9	人材育成に関する理論(5)インストラクショナルデザイン	2	インストラクショナルデザインの基礎的内容について調べる。	1h	人材育成とインストラクショナルデザインの関わりについて理解を深める。	1h
10	人材育成に関する理論(6)カリキュラムマネジメント	2	カリキュラムマネジメントの基礎的内容について調べる。	1h	人材育成とカリキュラムマネジメントの関わりについて理解を深める。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	人材育成に関する理論(7)教育・研修の評価	2	教育・研修の評価手法について調べる。	1h	人材育成における評価手法について理解を深める。	1h
12	人材育成の方法(1)OJT	3	OJTの基礎的内容について調べる。	1h	効果的なOJTの実施方法について理解を深める。	1h
13	人材育成の方法(2)OFF-JT	3	OFF-JTの基礎的内容について調べる。	1h	効果的なOFF-JTの実施方法について理解を深める。	1h
14	人材育成の方法(3)SDS	3	SDSの基礎的内容について調べる。	1h	効果的なSDSの実施方法について理解を深める。	1h
15	総合討論及び中間発表	1,2,3	前期の学習内容を整理し、学習の成果をまとめる。	1h	指摘された事項について考察を深める。	1h
16	福祉・介護サービスの特性と人材育成	4	福祉・介護サービスの特性について考察する。	1h	福祉・介護サービスの特性に基づく人材育成のあり方について理解を深める。	1h
17	職場レベルにおける人材育成(1)職場研修のプロセス	4	福祉の職場研修の方法について調べる。	1h	福祉の職場研修のプロセスについて理解を深める。	1h
18	職場レベルにおける人材育成(2)職場研修の推進体制	4	職場研修を推進するための要素について考察する。	1h	職場研修の推進体制における課題について理解を深める。	1h
19	職場レベルにおける人材育成(3)年間研修計画と研修企画	4	年間研修計画の例を調べる。	1h	年間研修計画及び研修企画の方法について理解を深める。	1h
20	職場レベルにおける人材育成(4)福祉研修における課題	4	職場レベルにおける人材育成の課題について振り返る。	1h	職場レベルにおける人材育成の課題及び推進方法について理解を深める。	1h
21	都道府県レベルにおける人材育成(1)社会福祉研修事業実施機関の役割	5	社会福祉研修事業の実施主体について調べる。	1h	社会福祉研修事業実施機関の役割について理解を深める。	1h
22	都道府県レベルにおける人材育成(2)研修体系の構築	5	都道府県社会福祉研修事業実施機関の研修体系の例を調べる。	1h	都道府県社会福祉研修事業の研修体系における課題について理解を深める。	1h
23	都道府県レベルにおける人材育成(3)福祉職場への支援—福祉人材育成認証評価制度—	5	福祉人材育成認証評価制度の事例について調べる。	1h	福祉人材育成認証評価制度の意義と課題について理解を深める。	1h
24	都道府県レベルにおける人材育成(4)研修事業実施における課題	5	都道府県レベルにおける人材育成の課題について振り返る。	1h	都道府県レベルにおける人材育成の課題及び推進方法について理解を深める。	1h
25	福祉人材育成の基準—求められる能力—	6	福祉人材に求められる能力について考察する。	1h	福祉人材育成の基準における課題について理解を深める。	1h
26	福祉人材育成におけるキャリアパス	6	前期に学習したカリキュラムデザインの手法について確認する。	1h	カリキュラムデザインの手法を援用したキャリアパスの構築方法について理解を深める。	1h
27	福祉人材育成におけるカリキュラムデザイン	6	前期に学習したカリキュラムデザインの手法について確認する。	1h	カリキュラムデザインの手法を援用したキャリアパスの構築方法について理解を深める。	1h
28	福祉人材育成におけるカリキュラムマネジメント	6	前期に学習したカリキュラムマネジメントのプロ	1h	カリキュラムマネジメントの手法を援用した福祉人材育成	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			セスについて確認する。		の効果について理解を深める。	
29	福祉人材育成の標準化に向けて	6	標準化の定義について調べる。	1h	福祉人材育成の標準化に向けた課題について理解を深める。	1h
30	総合討論及び研究成果の発表	1,2,3,4,5,6	学習内容を整理し、学習の成果をまとめる。	1h	発表内容を振り返り、学習内容を発展させる。	1h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

配布した資料を基に、復習と自主的な発展的学習を行うこと。
予習・復習時間は、総合討論前後の学習や研究成果の発表準備で適宜補完すること。

印刷 

違法薬物使用障害者支援研究

MYカモクに追加

英文名 : Research on Support for People with Illicit Drug Use disorder

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。

独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。

研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。

保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

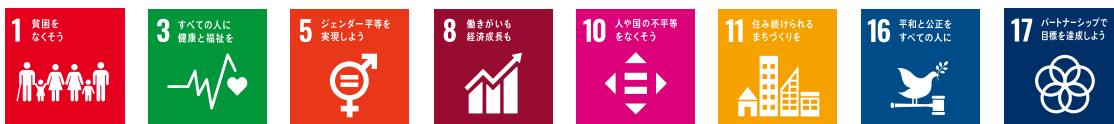
担当教員

池田 朋広

科目に関連した実務経験

- ①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において21年勤務の勤務歴
- ②非常勤として精神科クリニックデイケアに4年勤務の勤務歴
- ③外部講師（精神保健福祉士）として、東京保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加
- ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

ディスカッション・リアクションペーパー・フィールドワーク

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①違法薬物使用者は、法で規制されている物質を使用するという点で司法の対象であり、依存症をはじめとする精神疾患の治療が必要な医療の対象であり、児童/性的虐待・貧困など生活支援が必要な福祉の対象でもある。これまで、司法対応が中心であった違法薬物使用障害者だが、再犯者が後を絶たない状況にあって、違法薬物使用者への刑罰の意味が問い直されている。

ここでは、近年注目されているハームリダクションの考え方なども視野に入れつつ、社会福祉の立場から違法薬物使用者障害者にどのような支援を提供することが望ましいかについて議論したい。また、具体的な議論を展開するために、基礎的な疾患の理解や、現在の政策課題などといった知識を養うことも大切である。

②研究テーマを遂行し成果につなげるために必要な研究や実践例をとりあげ、指導教員ならびに他の受講生と質疑応答・議論をする。

到達目標

- 1.物質使用障害の疾病・障害について理解できる
- 2.違法物質使用者への我が国の政策について説明できる
- 3.違法物質使用障害をめぐる社会福祉の現状や今後の展望を考察できる
- 4.司法・医療・福祉など現場での実態や課題を考察できる
- 5.違法物質使用障害者への具体的支援策を立てることが出来る

使用教材

適宜参考書を推薦する

評価方法

講義への出席3分の2以上、講義に関する予習・復習の有無ならびに理解度70%、プレゼンテーションやディスカッションの内容20%、授業態度10%を総合して判断。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートについては、事前に課題内容を告知し、提出されたレポートの内容について教員の意見をフィードバックする。

オフィスアワー

前後期ともに、火曜4、5限とする。

メールアドレス（#→@）

ikedata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	概説 違法薬物使用者の現状	1	全体の概要を理解しておくこと。	1h	資料や参考書で確認すること。	1h
2	総論① 司法領域における違法物質使用者の現状	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
3	総論② 医療領域における違法物質使用障害者の現状	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
4	総論③ 福祉領域における違法物質使用障害者の現状	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
5	薬物依存症① 治療の現状	1	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
6	薬物依存症② 家族介入の現状	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
7	薬物依存症③ 福祉支援の現状	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
8	依存症以外の物質使用障害① 治療・家族介入	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
9	依存症以外の物質使用障害② 支援	1,2	講義に関係する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	併存性障害の治療・介入・支援① 治療	1,2	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
11	併存性障害の治療・介入・支援② 介入	1,2	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
12	併存性障害の治療・介入・支援③ 支援	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
13	総合討論①	1,3	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	プレゼンテーションの準備	1h
14	総合討論②	1,3	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	プレゼンテーションの準備	1h
15	前期のまとめ 学んだことをまとめて発表する	1,2,3, 4,5	講義に関する資料や論文を読むこと。 プレゼンテーション資料作成	1h	学習した内容を自分なりにまとめる	1h
16	海外の動向 違法薬物使用者への司法機関による取り組みの実際	1,3	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
17	海外の動向 違法物質使用者への医療・福祉的支援の実際	3,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
18	海外の動向 併存性障害者への支援の実際	3,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
19	就労支援① DARCでの取り組みの実際	3,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
20	就労支援② Individual Placement and Support ; IPSの実践	3,4	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
21	医療観察法制度下における違法物質使用障害者への対策① 入院治療	1,3	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
22	医療観察法制度下における違法物質使用障害者への対策② 通院治療	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
23	薬物使用とHIV① 治療現状	4,5	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
24	薬物使用とHIV② 当事者支援	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
25	違法薬物使用者への具体的支援の現状① Drug Addiction Rehabilitation Center; DARCの取り組み	5	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
26	違法薬物使用者への具体的支援の現状② 全国薬物依存症者家族会連合会の取り組み	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
27	違法薬物使用者への具体的支援の現状③ 更生保護施設/保護観察所の取り組み	4,5	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	資料や参考書で確認すること	1h
28	総合討論①	1	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	プレゼンテーションの準備	1h
29	総合討論②	1,2,3,4,5	講義に関する資料や論文を読むこと。	1h	プレゼンテーションの準備	1h
30	後期のまとめ 学んだことをまとめて発表する	1,2,3,4,5	討論に関する資料や論文を読むこと。 プレゼンテーション資料作成	1h	学習した内容を自分なりにまとめる	1h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。自ら、疑問や課題となるテーマを毎回持参すること。研究遂行において、学んだことを実践し、それを振り返り、フィードバックすること。

印刷 

特殊研究（保健福祉学専攻）

MYカモクに追加

英文名：Seminar for Doctoral Dissertation on Health and Welfare Sciences

科目区分：博士後期課程

学年：1,2,3年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：12単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の保健福祉の改善に生かすための実践的応用能力を身につけている。
保健福祉分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

指導教員

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①博士論文を作成するにあたり、テーマ確定、研究デザインの作成、計画と実施、データ解析と分析、論文執筆、投稿受理すべての過程において、指導教員による適切な助言・指導により、院生が主体的に完遂する。
- ②学生と相談のうえで、各指導教員が個別に実施方法を計画遂行する。

到達目標

1. 関連研究を十分にレビューできる。
2. 的確な研究デザインを構築できる。
3. 倫理審査の申請書を作成し、承認を得る。研究を自主的に実施し、データを分析できる。
4. 結果を総括して、考察を深めることができる。
5. 論文を完成し、原著論文として投稿、受理される。研究者としての倫理観と責任感を高めることができる。

使用教材

各指導教員より別途指示する。

評価方法

論文の完成度50%、博士論文作成過程における研究態度（客観性、熱意、誠実さなど）10%、審査の過程評価（発表会での講演・質疑）20%、倫理感20%、を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

各指導教員より別途指示する。

オフィスアワー



各指導教員より別途指示する。

メールアドレス (#→@)



各指導教員より別途指示する。

授業計画表



各指導教員より別途指示する。

【予習】論文提出のフォーマットを準備する・論文執筆の基礎事項を確認する

【予習時間】適宜

【復習】論文完成に向けてこれまで学んだことを振り返る

【復習時間】適宜

印刷 

調理機能学研究

MYカモクに追加

英文名 : Study on Functional Cookery Science

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。

✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。

研究成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。

食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

綾部 園子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①調理は人間が食物を摂取する最終過程にあり、栄養との接点であるので、対象者の嗜好・摂食嚥下力・食文化・栄養量に合致したものを調製することが重要である。本研究では食品の物理的性質および食べ物に対する人間（特に幼児および高齢者・疾病者）の嗜好・摂食嚥下力との関連について検討し、自分の研究テーマへの発展を目指す。

②授業はレクチャー形式および対話形式で実施する。

到達目標

- 1.各種調理操作によって生じる食品の物性変化について論理的に説明できる。
- 2.調理における水の挙動について説明できる。
- 3.食べ物に対する人間（特に幼児および高齢者・疾病者）の嗜好・摂食嚥下力について説明できる。
- 4.知識を自分の研究テーマに反映することができる。

使用教材

特に指定しないが、参考書を何冊か紹介する。
資料は適宜配布する。

評価方法

研究課題の探索と紹介、それに関するディスカッションを中心として評価を行う。授業への取組50%、プレゼンテーション50%で評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

発表・討論での、返答を通じて、フィードバックを行う。

オフィスアワー

授業日の3～5時限、質問はメールでも受け付ける。

研究室：1号館4階406研究室

メールアドレス (#→@)

s-ayabe#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション	1,2,3,4	シラバスを読み、講義の目的などを理解する	1h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1h
2	圧力と温度 講義	1	テキストの該当ページに目を通す。	1h	圧力と温度について理解する。	1h
3	圧力と温度 発表・討論	1	圧力と温度に関する文献を検索し、レジユメを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
4	物質の三態 講義	1	テキストの該当ページに目を通す。	1h	物質の三態について理解する。	1h
5	物質の三態 発表・討論	1	物質の三態に関する文献を検索し、レジユメを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
6	溶液と界面 講義	1	テキストの該当ページに目を通す。	1h	溶液と界面について理解する。	1h
7	溶液と界面 発表・討論	1	溶液と界面に関する文献を検索し、レジユメを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
8	熱と電磁波 講義	1	テキストの該当ページに目を通す。	1h	熱と電磁波について理解する。	1h
9	熱と電磁波 発表・討論	1	熱と電磁波に関する文献を検索し、レジユメを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
10	水の集まり方 講義	2	テキストの該当ページに目を通す。	1h	水の集まり方について理解する。	1h
11	水の集まり方 発表・討論	2	水の集まり方に関する文献を検索し、レジユメを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
12	水の性質と調理 講義	2	テキストの該当ページに目を通す。	1h	水の性質と調理について理解する。	1h
13	水の性質と調理 発表・討論	2	水の性質と調理に関する文献を検索し、レジユメを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
14	水と調理のいろいろ 講義	2	テキストの該当ページに目を通す。	1h	水と調理のいろいろについて理解する。	1h
15	水と調理のいろいろ 発表・討論	2	水と調理のいろいろに関する文献を検索し、レジユメを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
16	学外見学	1,2,3,4	見学施設と内容について調べておく	1h	学外見学に関するレポートを作成する	2h
17	食品中の水と電磁波 講義	1,2	テキストの該当ページに目を通す。	1h	食品中の水と電磁波について理解する。	1h
18	食品中の水と電磁波 発表・討論	1,2	食品中の水と電磁波に関する文献を検索し、レジユメを作成する	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			る。			
19	加熱調理のシミュレーション 講義	1,2	テキストの該当ページに目を通す。	1h	加熱調理のシミュレーションについて理解する。	1h
20	加熱調理のシミュレーション 発表・討論	1,2	加熱調理のシミュレーションに関する文献を検索し、レジюмеを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
21	食品物性と飲み込みやすさ 講義	1,3	テキストの該当ページに目を通す。	1h	食品物性と飲み込みやすさについて理解する。	1h
22	食品物性と飲み込みやすさ 発表・討論	1,3	食品物性と飲み込みやすさに関する文献を検索し、レジюмеを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
23	食品物性の測定 講義	1,3	テキストの該当ページに目を通す。	1h	食品物性の測定について理解する。	1h
24	食品物性の測定 発表・討論	1,3	食品物性の測定に関する文献を検索し、レジюмеを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
25	咀嚼力の測定 講義	3	テキストの該当ページに目を通す。	1h	咀嚼力の測定について理解する。	1h
26	咀嚼力の測定 発表・討論	3	咀嚼力の測定に関する文献を検索し、レジюмеを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
27	嗜好性の測定 講義	3	テキストの該当ページに目を通す。	1h	嗜好性の測定について理解する。	1h
28	嗜好性の測定 発表・討論	3	嗜好性の測定に関する文献を検索し、レジюмеを作成する。	2h	討論の内容を確認し、理解を深める。	1h
29	研究計画、討論	1,2,3,4	関連研究をレビューし、研究デザインを考える。	3h	研究計画を吟味し、修正する	2h
30	まとめ	1,2,3,4	具体的な、研究計画を立案する。	3h	研究計画を完成する。	2h

合計時間（予習・復習）

80h

備考

記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、まとめ前等の学習で補完すること。

印刷 

食品学研究

MYカモクに追加

英文名：Food Chemistry Research

科目区分：博士後期課程

学年：1年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：4単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。
食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

應本 真

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①食品は、栄養成分補給のためだけではなく、生きていくことへの楽しみや喜びを与える重要なものである。個々の食品は色、香り、味などの固有の因子を有しており、嗜好や食欲などの人間の食行動に大きな影響を及ぼしている。また、食品は、体にとって有用な機能性成分を有するものもあり、疾病の予防や健康維持・増進といった生体の調節機能を担うものもある。

②本講義では、食品の嗜好性や機能性に関する文献を精読し、未解明の事象についての研究を立案する。研究の目的を設定し、研究・実験方法を構築する。研究計画に沿って研究を実践し、研究成果をまとめ、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。これにより、研究テーマに関する分野で研究を遂行し、研究をまとめ、討議できるレベルに到達することを目標とする。

到達目標

1. 新たな研究テーマを見つけることができる。
2. 実験計画を立て、実験を行うことができる。
3. 得られた実験結果を論理的に分析することができる。
4. 研究成果をまとめ、発表することができる。

使用教材

必要に応じて、資料や文献等を紹介する

評価方法

論文で評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題に対して、採点しコメントを付して返却する。

オフィスアワー

随時

研究室：1号館4階402

メールアドレス（#→@）

oumoto#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション	1	シラバスの内容を読んで、講義目標や到達目標などを理解する。	0h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解する。	0h
2	文献の検索と精読（1）	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく	1h	関連資料や論文の復習	1h
3	文献の検索と精読（2）	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく	1h	関連資料や論文の復習	1h
4	文献の検索と精読（3）	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく	1h	関連資料や論文の復習	1h
5	研究の立案と研究テーマの設定	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく	1h	関連資料や論文の復習	1h
6	研究の実施（1）-1	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
7	研究の実施（1）-2	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
8	研究の実施（1）-3	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
9	研究の実施（1）-4	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
10	中間まとめ（1）	3,4	発表用資料の修正	1h	発表用資料の完成	1h
11	総合討論（1）	3,4	発表用資料の修正	1h	発表用資料の完成	1h
12	研究の実施（2）-1	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
13	研究の実施（2）-2	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
14	研究の実施（2）-3	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
15	研究の実施（2）-4	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
16	中間まとめ（2）	3,4	発表用資料の修正	1h	発表用資料の完成	1h
17	総合討論（2）	3,4	発表用資料の修正	1h	発表用資料の完成	1h
18	研究の実施（3）-1	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
19	研究の実施（3）-2	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
20	研究の実施 (3) -3	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
21	研究の実施 (3) -4	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
22	中間まとめ (3)	3,4	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h
23	総合討論 (3)	3,4	発表用資料の修正	1h	発表用資料の完成	1h
24	研究の実施 (4) -1	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
25	研究の実施 (4) -2	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
26	研究の実施 (4) -3	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
27	研究の実施 (4) -4	2,3	実験プロトコールの作成	1h	実験の復習と実験結果の整理	1h
28	総まとめ (1)	3,4	論文とプレゼンテーション用資料の準備	1h	論文とプレゼンテーション用資料の修正	1h
29	総まとめ (2)	3,4	論文とプレゼンテーション用資料の準備	1h	論文とプレゼンテーション用資料の修正	1h
30	総まとめ (3)	3,4	論文とプレゼンテーション用資料の準備	1h	論文とプレゼンテーション用資料の修正	1h

合計時間 (予習・復習) ^

58h

備考 ^

予習・復習の時間数：不足分については中間まとめ・まとめ前等の学習で補完すること。

印刷 

応用食品学研究

MYカモクに追加

英文名 : Applied food science research

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。
食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松岡 寛樹

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①食生活は、栄養成分補給のためだけではなく、生きていることへの楽しみや喜びを与える重要な要素である。一方、個々の食品は色、香り、味及びテクスチャーという固有の因子を有しており、それらのファクターは食欲など人間の食行動に大きな影響を及ぼしていることは周知の事実である。

②本講座では、わが国の伝統的野菜について、その嗜好性および機能性から見た文献を購読し、具体的な研究方法を修得する。

到達目標

1. 新たなテーマを見つける。
2. 実験プロトコルをたてることが出来る。

使用教材

必要に応じて紹介する

評価方法

論文で評価する (100%)

課題・評価に対するフィードバック方法

提出課題に対しコメント等をつけて返却

オフィスアワー

随時

研究室：10号館3階305

メールアドレス (#→@)

matsuoka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、本特論の進め方、到達目標、評価方法の確認	1,2		0h		0h
2	食品の一次機能1 (調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
3	食品の一次機能2 (討論・考察)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
4	食品の二次機能1 (調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
5	食品の二次機能2 (討論・考察)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
6	食品の三次機能1 (調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
7	食品の三次機能2 (調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
8	中間まとめ1	1,2	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h
9	総合討論1	1,2	発表用資料の修正	1h	発表用資料の完成	1h
10	一次機能物質の解析 (調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
11	一次機能物質の解析 (討論・考察)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
12	二次機能物質の解析 (調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
13	二次機能物質の解析 (討論・考察)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
14	三次機能物質の解析 (調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
15	三次機能物質の解析 (討論・考察)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
16	中間まとめ2	1,2	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h
17	総合討論2	1,2	発表用資料の修正	1h	発表用資料の完成	1h
18	漬物加工技術 (アブラナ科野菜に関する調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
19	漬物加工技術 (ウリ科野菜に関する調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
20	漬物加工技術 (セリ科野菜に関する調査)	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
21	漬物加工技術（果実類に関する調査）	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
22	中間まとめ3	1,2	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h
23	総合討論3	1,2	発表用資料の修正	1h	発表用資料の完成	1h
24	漬物加工技術（漬物副資材に関する調査）	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
25	漬物加工技術（食品添加物に関する調査）	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
26	漬物加工技術（素材別漬込み技術に関する調査）	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
27	漬物加工技術（討論・考察）	1,2	関連文献の検索・購読	1h	関連資料・購読文献の要約	1h
28	まとめ1	1,2	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h
29	まとめ2	1,2	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h
30	まとめ3	1,2	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h

合計時間（予習・復習）

58h

備考

予習・復習の時間数：不足分については中間まとめ・まとめ前等の学習で補完すること。

印刷 

食品安全学研究

MYカモクに追加

英文名 : Food Safety Science

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。
食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

村松 芳多子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① バイオテクノロジーにより食品は多様化している。新しい農産物による効率化が図られ、農薬の使用による環境汚染など、食べ物や日常生活に大きな影響をもたらしている。食物生産をめぐる最近の研究例と研究手法等を紹介し、食物（食品）について考える。

② 講義を中心に、研究の進め方についてふれる。発表・討論等を実施しながら「探求するための方法を自分の力で考え出すこと」を実践する。講義中に予習・復習課題について発表を求められることがある。

到達目標

「安全、安心とは何か」をふまえ、それぞれの立場に立った際に何をもって安全・安心かを考えることができる。さらに、課題・討論・考察を行い、自分の力で探求するための方法を実践することができる。

1. テーマを見つけることができる
2. テーマについて調べることができる
3. 論理的に分析することができる
4. 集めた素材を配置することができる
5. 説得力のある簡潔な文章を書くことができる

使用教材

必要に応じて配布、および紹介する

評価方法

論文（レポート）で評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出課題に対し、コメント等をつけて返却する

オフィスアワー

講義のある曜日の午後（3～5時限）

研究室：1号館4階404

メールアドレス（#→@）

教員への連絡方法は授業内で指示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	概要（生産者（生産・製造・加工・流通・販売）と消費者、立場の違いによる考え方の相違）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
2	食物と食品1（食物と食品と加工食品）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
3	食物と食品2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
4	微生物と食品1-1（微生物と発酵食品）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
5	微生物と食品1-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
6	微生物と食品2-1（発酵生産物の手技と制御）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
7	微生物と食品2-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
8	微生物と食品3-1（発酵生産物の利用）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
9	微生物と食品3-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
10	微生物と食品4-1（微生物の利用と食品の開発、地域環境と特産物）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
11	微生物と食品4-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
12	食品表示と法規1-1（食品衛生法と関連法規）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
13	食品表示と法規1-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
14	食品表示と法規2-1（食品保存と食品添加物・農薬、および生産環境）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
15	食品表示と法規2-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
16	食品表示と法規3-1（表示からみる安全と品質）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
17	食品表示と法規3-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h
18	食品表示と法規4-1（食物アレルギーと表示）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読 文献の要約	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
19	食品表示と法規4-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
20	細菌汚染とその被害1-1（細菌による事故事例とその対処方法）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
21	細菌汚染とその被害1-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
22	細菌汚染とその被害2-1（細菌の被害対策）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
23	細菌汚染とその被害2-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
24	カビ汚染とその被害1-1（カビによる事故事例とその対処方法）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
25	カビ汚染とその被害1-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
26	カビ汚染とその被害2-1（カビの被害対策）	1,2,3,4	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
27	カビ汚染とその被害2-2（討論・考察）	1,2,3,4,5	関連文献の検索・講読	1h	関連資料・講読文献の要約	1h
28	まとめ1（発表・討論・考察）	1,2,3,4,5	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h
29	まとめ2（発表・討論・考察）	1,2,3,4,5	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h
30	まとめ3（発表・討論・考察）	1,2,3,4,5	発表用資料の作成	1h	発表用資料の修正	1h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

◎ 状況によりオンラインになった場合は別途メール等で連絡する
 食品表示に関する法規制を常に確認する。新聞の食品と環境（社会情勢を含む）に関する記事を収集する。新しい食品開発の情報を収集する

※ 平日の予習・復習時間の不足分は、土日祝日等に必ず補うこと（課題等は、記載の平日時間だけでは終了できません）

印刷 

栄養生化学研究

MYカモクに追加

英文名：Nutrition Biochemistry Research

科目区分：博士後期課程

学年：1年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：4単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。

食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中 進

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

研究テーマに関する論文を精読し、研究の立案を行う。研究の目的に従い、研究方法、実験方法を構築する。研究を実践することにより研究成果をまとめ、プレゼンテーションと討議を行う。これにより、研究テーマに関する分野で指導的に研究・討議できるレベルに到達することを目標とする。

②講義の実施方法

予習・復習の課題について講義中に発表や提出を求めることがある。

到達目標

1. 研究テーマに関する論文を精読することができ、研究の立案を行うことができる。
2. 研究の目的に従い、研究方法、実験方法を自ら構築することができる。
3. 研究を実践することにより研究成果をまとめ、プレゼンテーションと討議を行うことができる。

使用教材

必要に応じて、準備した文献や資料等を用いる

評価方法

講義は対話形式やリサーチ内容の発表形式が中心となる。従って、講義内での発言や発表内容を重視する（評価の50%）。また学期末に課すレポート（レポートの採点にあたっては、講義の内容を十分に理解して分析が行われているかを重視する）による評価を50%とする。

総合評価60%以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

ゼミによるディスカッション時のコメントおよびレポートは添削して返却する。

オフィスアワー

前期（火4時限目）、後期（火4時限目）
研究室：1号館4階401研究室

メールアドレス（#→@）

tanaka#takasaki-u.ac.jp（#→@）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション		シラバスの内容を読んで、講義目標や到達目標などを理解する。	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解する。	1h
2	専門文献の検索と精読1文献1の精読	1,2,3	内外で発表された文献の検索	1h	文献内容の理解	1h
3	専門文献の検索と精読2文献2の精読	1,2,3	内外で発表された文献の検索	1h	文献内容の理解	1h
4	研究の立案	1,2,3	研究テーマの作成	1h	文献による再調査	1h
5	研究テーマの作成	1,2,3	研究テーマの作成	1h	文献による再調査	1h
6	研究方法の構築	1,2,3	研究方法、実験方法の構築のための文献調査	1h	研究方法、実験方法の構築	1h
7	実験方法の構築	1,2,3	研究方法、実験方法の構築のための文献調査	1h	研究方法、実験方法の構築	1h
8	研究の準備	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
9	研究の実践	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
10	研究の実践と経過報告	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
11	研究の報告	1,2,3	研究結果の報告書作成	1h	実験結果の整理	1h
12	研究の報告と討論	1,2,3	研究結果の報告書作成	1h	実験結果の整理	1h
13	研究の討論	1,2,3	研究結果の報告書作成	1h	実験結果の整理	1h
14	研究の討論と修正	1,2,3	研究結果の報告書作成	1h	実験結果の整理	1h
15	中間報告の作成	1,2,3	中間報告書の作成	1h	中間報告書の修正	1h
16	中間報告の発表準備	1,2,3	中間報告書の作成	1h	中間報告書の修正	1h
17	中間報告	1,2,3	中間発表練習	1h	中間発表の修正	1h
18	研究方法、実験方法の修正	1,2,3	研究方法、実験方法修正のための文献検索	1h	研究方法、実験方法の修正	1h
19	研究方法、実験方法の修正と討論	1,2,3	研究方法、実験方法修正のための文献検索	1h	研究方法、実験方法の修正	1h
20	専門文献の検索と研究の実践	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
21	研究の実践	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
22	研究の実践と結果のまとめ	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
23	研究結果のまとめ	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
24	研究結果と報告書の作成	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
25	研究の報告書作成	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
26	研究の討論	1,2,3	研究の実践	1h	実験結果の整理	1h
27	研究結果の発表準備	1,2,3	研究結果の報告書作成	1h	実験結果の整理	1h
28	プレゼンテーション	1,2,3	研究結果の報告書作成	1h	実験結果の整理	1h
29	プレゼンテーションの修正	1,2,3	プレゼンテーション用資料作成	1h	プレゼンテーション用資料修正	1h
30	総まとめ	1,2,3	研究の成果を抽出	1h	研究の問題点を抽出	1h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

4単位を修得するためには、講義時間（60時間（実質90分×30回））＋予習・復習時間（120時間（実質3時間×30回））が必要です。平日の予習・復習の不足分は、土日祝日等に必ず補うこと。オンラインで実施する場合には、別途提示する。

印刷 

栄養生理学研究

MYカモクに追加

英文名：Nutritional Physiology Research

科目区分：博士後期課程

学年：1年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：4単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。
食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

下川 哲昭

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①栄養生理学領域における研究法とその実際について自身の研究テーマを選び研究を遂行し研究成果につなげる。特に以下の3点に焦点をあてて講義と研究を行う。

1. 乳汁中のホルモンによる育児行動の解析、
2. 細胞分化因子EID1の脂質代謝における抑制機能、
3. 先天性脊柱側弯症における胎児期の栄養素について

②研究の進め方：自主性を重視し実践的な考え方・技術を習得できるように指導する。

到達目標

1. 研究の醍醐味を味わい、新たな環境でも自分で研究を遂行できる能力を確立することを目標とする。
2. 自身の研究成果を英文への学術雑誌に投稿・掲載することを目指す。

使用教材

適時資料、文献等を配布する。

評価方法

研究への取り組みと学年末の口頭試問により評価する。得点率60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題に対して、採点しコメントを付して返却する。

オフィスアワー

月曜日（終日）

研究室：1号館3階311研究室

メールアドレス（#→@）

shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	研究とは？イントロダクションと研究方法について1	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
2	研究とは？イントロダクションと研究方法について2 研究倫理	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
3	研究対象における現在までの既知情報の収集1	1,2	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
4	研究対象における現在までの既知情報の収集2 文献検索	1,2	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
5	研究ゴールの設定	1,2	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
6	実験動物の扱い方1 一般的な注意	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
7	実験動物の扱い方2 小動物の取り扱い	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
8	実験動物の扱い方3 動物実験の倫理	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
9	細胞培養法の確立1 目的	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
10	細胞培養法の確立2 材料	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
11	細胞培養法の確立3 方法と評価	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
12	遺伝子導入法の確立1 方法の選択	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
13	遺伝子導入法の確立2 理論と実際	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	遺伝子導入法の確立3 評価	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
15	核酸・タンパク質の抽出 1 目的	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
16	核酸・タンパク質の抽出 2 方法の選択	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
17	核酸・タンパク質の抽出 3 評価	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
18	核酸・タンパク質の電気泳動1 目的	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
19	核酸・タンパク質の電気泳動2 方法の選択	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
20	核酸・タンパク質の電気泳動3 評価	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
21	タンパク質の免疫沈降法とウェスタンブロット法 1 理論	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
22	タンパク質の免疫沈降法とウェスタンブロット法 2 免疫沈降	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
23	タンパク質の免疫沈降法とウェスタンブロット法 3 評価	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
24	実験結果の解釈	1,2	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
25	追試験1	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
26	追試験2	1	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
27	論文の作成とプレゼンテーションの準備1 手順	1,2	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
28	論文の作成とプレゼンテーションの準備2 注意点	1,2	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h
29	論文の作成とプレゼンテーションの準備3 草稿とプレゼン案の作成	1,2	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
30	論文の作成とプレゼンテーションの準備4 草稿とプレゼン案の添削	1,2	予め指定した資料・論文に目を通しておく。登場する学術用語を理解しておく。	1h	内容を理解し重要項目や実験手法を研究ノートに詳細に整理・記述しておく。	2h

合計時間（予習・復習）



90h

印刷 

臨床栄養学研究

MYカモクに追加

英文名：Research of Clinical Nutrition

科目区分：博士後期課程

学年：1年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：4単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。
- ✓ 食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

岡村 信一

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①健康の保持増進および疾病の予防・改善のために、食はきわめて重要である。その観点から、論文等の最新知見を収集・整理して解決すべき問題点を見いだす能力を養う。そして、それに基づいて自身の研究テーマを設定し、計画を立案して研究を遂行する能力を養う。

②本講座は、各自の能動的学習に基づいて進められる。また、研究成果のプレゼンテーションと論文作成についても学習する。

到達目標

- 1.食と健康・疾病との関わりに関心を持ち、解決すべき問題点に着目できる。
- 2.問題解決のための研究を立案・実施して、研究成果のプレゼンテーションと論文発表ができる。

使用教材

資料は適宜配布する。

評価方法

プレゼンテーション50%、ディスカッション50%の状況から総合的に成績を評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

適宜ディスカッションをしてフィードバックする。

オフィスアワー

メールアドレス (#→@)

okamura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
2	研究の進め方	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
3	到達目標と評価方法の確認	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
4	研究室と研究設備の利用方法	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
5	研究倫理	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
6	食と健康・疾病に関する最新文献の収集	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
7	食と健康・疾病に関する最新文献の精読吟味	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
8	食と健康・疾病に関する先行研究の調査	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
9	食と健康・疾病に関する先行研究の文献収集	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
10	食と健康・疾病に関する先行研究の精読吟味	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
11	研究テーマ探し	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
12	研究テーマ設定	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
13	研究計画の立案（概要）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
14	研究計画の立案（詳細）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
15	実験方法（概要）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
16	実験方法（詳細）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
17	実験材料（概要）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
18	実験材料（詳細）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
19	研究の実践とディスカッション（ステップ1）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
20	研究の実践とディスカッション（ステップ2）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
21	研究の実践とディスカッション（ステップ3）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
22	研究の実践とディスカッション（ステップ4）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
23	研究の実践とディスカッション（ステップ5）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
24	研究の実践とディスカッション（ステップ6）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
25	研究の実践とディスカッション（ステップ7）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
26	研究論文の作成（ステップ1）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
27	研究論文の作成（ステップ2）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
28	研究論文の作成（ステップ3）	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
29	研究論文の投稿	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h
30	最終報告とまとめ	1,2	授業に関連する基礎知識を予め整理しておく。	1h	講義内容に関連する文献や情報を自主的に調べる。	1h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

予習・復習を各自積極的にを行い、疑問点や課題点を見つけるようにする。予習・復習時間は、総合討論前後の学習や研究発表・論文作成に関わる自習で補完する。食と健康・疾病との関わりにおける解決すべき問題点の抽出とその解決法について、絶えず注目して日常生活を送る。

印刷 

スポーツ栄養学研究

MYカモクに追加

英文名 : Clinical Sports Nutrition

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。

独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。

研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。

研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。

食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

木村 典代

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①スポーツ・身体活動と食には極めて密接なかわりがある。その観点から、論文等の最新知見を収集・整理し、自分の研究テーマへの発展を目指す。

②授業はレクチャー形式および対話形式で実施する

到達目標

1. 競技者にとって必要な栄養摂取の理論と実践に関する高度な知識を修得し研究へ応用することができる
2. 競技パフォーマンス向上のための栄養戦略の有効性を理解できる
3. 競技前後の食事と水分補給に関する最近の研究から策定された実践的ガイドラインを説明できる
4. 食事環境とサプリメントの活用方法に関する専門的知識を有しそれを基にした提言を行える

使用教材

ACSM's Nutrition for exercise Science スポーツ栄養学ハンドブック 東京大学出版会

評価方法

授業中の発言や発表内容などの授業態度（80%）、レポートの提出（20%）にて成績評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業時のコメントを通じてフィードバックを行う。

オフィスアワー

メールアドレス (#→@)

kimura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	競技選手に対する栄養指導における重要事項 専門用語	1,2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
2	競技選手に対する栄養指導における重要事項 各種ガイドライン	1,2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
3	炭水化物（糖質）運動時における炭水化物の機能	1	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
4	炭水化物（糖質）運動時における炭水化物の活用	1,2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
5	たんぱく質 運動時におけるたんぱく質の機能	1	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
6	たんぱく質 運動時におけるたんぱく質の活用	1,2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
7	脂質 運動時における脂質の機能	1	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
8	脂質 運動時における脂質の活用	1,2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
9	ビタミン 運動時におけるビタミンの機能	1	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
10	ビタミン 運動時におけるビタミンの活用	1,2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
11	ミネラル 運動時におけるミネラルの機能	1	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
12	ミネラル 運動時におけるミネラルの活用	1,2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
13	競技パフォーマンスにおける水分補給に関する問題	3	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
14	競技パフォーマンスにおける水分補給	3	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	競技選手における体重および身体組成の課題	2,4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
16	競技選手における体重および身体組成の調整方法	2,4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
17	酸素の運搬・利用、筋痛の軽減、および筋の回復に関係する栄養学的要因 1	2,4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
18	酸素の運搬・利用、筋痛の軽減、および筋の回復に関係する栄養学的要因 2	2,4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
19	男女別の最適な栄養補給	2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
20	年代別の最適な栄養補給	2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
21	パワー系競技における栄養戦略	2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
22	持久系競技における栄養戦略	2	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
23	遠征、高地、高温多湿条件が栄養に及ぼす影響	4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
24	遠征、高地、高温多湿条件下における栄養補給	4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
25	パフォーマンス向上のためのサプリメント（栄養補助食品）とエルゴジェニックエイドの課題	4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
26	パフォーマンス向上のためのサプリメント（栄養補助食品）とエルゴジェニックエイドの活用	4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
27	競技選手の健康状態、病気および怪我と関連する栄養上の課題	4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
28	競技選手の健康状態、病気および怪我時の栄養補給	4	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
29	最高のパフォーマンスを発揮するための食事計画における注意点	1,3	指定された学習範囲に関連する論文を調べる	1.5h	学習内容をまとめる	1.5h
30	栄養戦略とパフォーマンス：科学的知見とその応用のプレゼン	1,2,3,4	これまでの学習内容をまとめ、プレゼンの準備を行う	1.5h	指摘事項をまとめる	1.5h



保健情報学研究

MYカモクに追加

英文名 : Health Informatics

科目区分 : 博士後期課程

学年 : 1年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。
食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

未定

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①少子・高齢社会における健康の保持増進と疾病予防を目的として、人間の健康状況と食生活・栄養、ライフスタイル、身体活動などとの関連を解析するため、地域、職域、学校等の人間集団を対象とした疫学調査、情報処理、統計解析を中心とした研究を行う。また、現在は膨大な量の健康情報が存在しているが、その中から必要な情報を集め、整理し、役立つ情報として加工し、その結果を活用できる、実践的な情報利用能力を修得する。

②授業はレクチャー形式、対話形式で行う。

到達目標

1. 関連論文の内容を正確に理解し、評価することができる。
2. 多変量解析などの発展的な方法を用いてデータを分析することができる。
3. 研究結果を効果的な表現方法で説明できる。

使用教材

別途指示する。

評価方法

教員とのディスカッション30%、プレゼンテーション（内容50%、質疑応答20%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

ディスカッション時のコメントや発表時の質疑応答を通じてフィードバックを行う。

オフィスアワー

未定

研究室：未定

メールアドレス（#→@）

未定

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	研究テーマについて	1	シラバスの内容を読んで、目標などを理解する	1.5h	授業内容を整理する	1.5h
2	関連論文の検索と収集1	1	研究テーマに関連するキーワードを調べる	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
3	関連論文の検索と収集2	1	収集した論文の整理	1.5h	関連する知識や情報を調べる	1.5h
4	関連論文の検索と収集3	1	収集した論文の整理	1.5h	関連する知識や情報を調べる	1.5h
5	関連論文の精読と討論1	1	収集した論文の整理	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
6	関連論文の精読と討論2	1	収集した論文の整理	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
7	関連論文の精読と討論3	1	収集した論文の整理	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
8	関連論文の精読と討論4	1	収集した論文の整理	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
9	関連論文の精読と討論5	1	収集した論文の整理	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
10	関連論文の精読と討論6	1	収集した論文の整理	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
11	関連文献の精読と討論7	1	収集した論文の整理	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
12	関連文献の精読と討論8	1	収集した論文の整理	2h	関連する知識や情報を調べる	1h
13	先行研究のまとめ1	1	精読した論文の整理	2h	討論内容の整理	1h
14	先行研究のまとめ2	1	精読した論文の整理	2h	討論内容の整理	1h
15	先行研究のまとめ3	1	精読した論文の整理	2h	討論内容の整理	1h
16	既存データ等の分析と結果の考察1	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
17	既存データ等の分析と結果の考察2	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
18	既存データ等の分析と結果の考察3	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
19	既存データ等の分析と結果の考察4	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
20	既存データ等の分析と結果の考察5	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
21	既存データ等の分析と結果の考察6	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
22	既存データ等の分析と結果の考察7	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
23	既存データ等の分析と結果の考察8	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
24	既存データ等の分析と結果の考察9	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
25	既存データ等の分析と結果の考察10	2	既存データの収集	1.5h	授業内容の整理	1.5h
26	プレゼンテーションの準備1	3	資料作成に必要な情報の収集	2h	指摘されたポイントの整理	1h
27	プレゼンテーションの準備2	3	資料作成に必要な情報の収集	2h	指摘されたポイントの整理	1h
28	プレゼンテーションの準備3	3	資料作成に必要な情報の収集	2h	指摘されたポイントの整理	1h
29	プレゼンテーションの準備4	3	資料作成に必要な情報の収集	2h	指摘されたポイントの整理	1h
30	プレゼンテーション	3	発表の準備・練習	2h	討論内容の整理	1h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

関連分野の新聞記事やニュースに関心を持ち、専門知識を自主的に調べることで知識を深める。

印刷 

特殊研究（食品栄養学専攻）

MYカモクに追加

英文名：Seminar for Doctoral Dissertation on Food and Nutrition Sciences

科目区分：博士後期課程

学年：1,2,3年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：12単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 健康増進と生活習慣病の予防に貢献する研究や新規食品の開発研究を自立して行うための豊かな見識と専門的知識・技能を身につけている。
- ✓ 独自の研究計画を立案して、それを実行することにより、研究成果を得る能力を身につけている。
- ✓ 研究の成果を適切に取りまとめ、専門学会で口頭発表するとともに、原著論文を作成して専門学術誌に発表する能力を身につけている。
- ✓ 研究成果を地域社会の健康増進と生活習慣病予防に生かすための実践的応用能力を身につけている。
食品栄養分野の専門職として高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力をもつ。

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

下川哲昭、岡村信一、田中進、木村典代、村松芳多子、綾部園子、應本真

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①博士論文のテーマの設定、研究計画の作成、研究の実施、研究成果のまとめとその評価、関連学会での口頭発表又は示説発表、関連学術雑誌への論文発表、博士論文の作成等を行う。
- ②個別に指導によるレクチャーおよび対話形式にて実施する。

到達目標

- 1.テーマに応じた研究計画を立案・実行し、博士論文を完成させる。
- 2.自立した研究活動が行える。

使用教材

別途指示する。

評価方法

博士論文作成過程における研究態度（30%）、論文の完成度・審査の過程・発表会での講演・質疑（70%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

日常より、計画・実施・検証・改善・評価等の議論を行い支援する。

オフィスアワー

講義のある曜日の午後（3～5時限）

メールアドレス（#→@）



教員への連絡方法は、担当教員の初回授業時に提示する。

授業計画表



第1回～第5回 研究課題の決定

第6回～第10回 研究計画の立案

第11回～第30回 本研究の前段的遂行

第31回～第35回 中間発表会の準備・発表（2年次）

第36回～第60回 本研究の遂行

第61回～第65回 中間発表会の準備・発表（3年次）

第66回～第75回 本研究の遂行

第76回～第87回 博士論文の作成

第88回～第90回 博士論文発表会の準備・発表

【到達目標】 第1回～90回 すべて1,2

【予習】 研究テーマに関連した文献を出来るだけ収集し、研究論文の質を上させる。

【予習時間】 1.5h/回

【復習】 研究テーマについて計画・実施・検証・改善・評価等を行い、研究論文の質を向上させる。

【復習時間】 1.5h/回

合計時間（予習・復習）



270h

備考



他の院生や研究科内の教員、学内外の専門家との議論や交流を通じて、研究者としての基本を身につける。

印刷 